

加西市健康福祉会館

新年のご挨拶

兵庫県行政書士会東播支部

支部長 中村敬吾

皆様あけましておめでとうございます。
皆様方には希望新たな新春をお迎えのこととお慶び
申し上げます。旧年中は何かと支部運営にご協力、
ご支援頂きましてありがとうございます。お礼申し
上げます。

さて昨年を振り返ってみますと、ゼネコン、銀行、
生命保険、証券会社等の引き続き倒産により全国民
に不安を与え、つい最近、行政書士法の改正が行わ
れたにもかかわらず、更に行財政改革に名を借り、
歴史ある我が行政書士会に突然「行政書士による書
類作成業務独占の廃止」「規制緩和に関する論点公
開」という問題が出されました。これらの問題につ

いて撤回を要望すべく日政連はじめ兵政連の役員皆
様の協力を得て、各地元の国会議員の先生のご支援
を得るため事務所に直接陳情、また、規制緩和対策
フォーラム、キャンペーン広告等を各会員自らが危
機感を持って行ってきました。また、これからは許
認可申請の電子化、コンサル業務化、行政改革の時
代にあるのではないかとと思われます。平成9年度事
業として支部会員の方々にアンケートを取ってしま
したところ、ひと昔前は読み書きソロバンと言われ
ましたが、現在ではパソコンに対する研修希望が大
変多くなっておりました。支部会員のご要望により
当支部では平成9年8月22日から10月31日まで週一
回の割合でパソコン研修を開催しましたところ、大
変盛況でありました。

今後、当支部においても業界の環境の変化に前向
きに対処できるよう、役員一同頑張りたいと思いま
すので、会員各位のより一層のご支援を賜りますよ
うお願い致します。

最後になりましたが皆様方の今後益々のご発展と
ご健勝をお祈り致しまして新年のご挨拶と致します。

行政書士は、まちの身近な相談相手

法の日無料相談所開設

岩 本 泉

平成9年10月4日(土)、法の日の無料相談所を加西市のジャスコにおいて、午前10時30分より午後4時まで開設しました。今年も土地家屋調査士会東播支部と共催しました。あらかじめ神戸新聞、地元紙等で案内していただいたこともあって、開店と同時

に新聞の切り抜きを手に多数の相談者が来られるといった状況で、大盛況の内に終わりました。相談者からは、相続、農地の処分や転用の相談が多く、税金の問題や土地の境界、建物の登記等と広範囲にわたるものでした。



生命保険を考える

保険分科会 村上紀文

平成9年9月27日、加西市の加西市健康福祉会館においてアリコジャパンの姫路エージェンシーオフィス所属、日本ファイナンシャルプランナーズ協会会員及びCFPである橋正人氏を迎えて、一般生命保険の良し悪しの研修会を開催しました。

私達は、生命保険と言えば、多くは死亡時、入院時、ケガ等の保障に対して加入しますが、その加入の仕方に大きく損をしている場合が多いことに認識を新たにしました。

生命保険は、大きくは3種類に分類されそして細かく別れています。また加入者の多くは60歳を目処に満期であり、人の死亡率の統計では、30代、40代、50代においても100人に1人未満で、60代に入っても

非常に少ない。にもかかわらず、私達は大きな保険に加入しています。一般に定期、養老・定期、終身が一体化したものが多く、そこに落とし穴がある。保険外交員も売上を伸ばすことが先に立ち、細かい話がないのが通例であります。そういった保険の良し悪し・損得を勉強し、この研修に参加したメンバーも多様な質問をし、活発な意見交換があり盛況のうちに2時間30分の研修が終了しました。

加入した生命保険を見直すことを学んだ大切な研修会でありました。参加されなかった会員諸氏も、次回は是非参加して自分の大切な生命の保障を考えてみては……。

パソコン研修会

研修部 足立勝美

研修部のアンケート結果に基づき、平成9年8月22日から10月31日まで合計10回にわたって、西脇市の職業訓練センターにおいて、パソコン研修会を実施しました。参加希望者の募集をするまでは、定員に達するかどうか心配しておりました。ところが研修が平日昼間という時間帯にもかかわらず、案内をしたその日に、20名の定員に達し、パソコンに対する意識の高さを実感しました。

講師に一級パソコン技師の藤原邦久先生を迎え、生徒1人にパソコン1台という恵まれた環境のもと、ウィンドウズの基礎・ワープロソフト「ワード」・表計算ソフト「エクセル」・インターネットなどの研修を行ないました。参加された会員は、まったく

初めてから、既に業務に活用されている方まで、様々でした。それでも研修が進むにつれて、会員同士で教え合ったり意見交換を行うなど、積極的な取り組みもあり、有意義な研修ができたと思います。

又、研修会終了後もパソコンの学習を続けていきたいというご意見があり、希望者による研修がつづけられております。(PC同好会)。PC同好会においては、年末には年賀状ソフトを使用しての年賀状の作成・印刷などが行われました。

今後、行政書士をとりまく情勢も時代と共に変わってくると思われませんが、機会を見つけて研修に取り組んで行きたいと思っております。

パソコン研修会に参加して

大村 彰

岡 聖一

テレビや新聞でも、インターネット、ホームページという言葉が一般的に使われていますが、私にはよく分かりませんでした。これでは時代遅れ、何とかあらしでも分かればと思って参加させていただきました。

機械や計算には強いほうだと自惚れていましたが、どうしてどうしてパソコンの操作は簡単でないことを思い知らされました。機械はここまで進んだのかと驚いております。

機能の一部も知ることが出来ましたし、インターネット、ホームページも分かって、時代遅れから一寸抜け出せたのではないかと安心しております。

前田 秀男

この度、行政書士会東播支部のパソコン研修会に参加させていただきました。ここ数年パソコンを使いこなそうと思いながら、自分だけではどうしても、毎日の仕事に直接には関係がないためにキーボードを打つ時間が確保出来なくて、なかなか入り込めませんでした。この研修会に参加して、少しでも時間的に強制されて、ワード、エクセル等が分かった気がします。

今後、これをきっかけとして毎日の仕事に少しずつでも取り入れて、気軽に使える私の道具としたいと思います。今後ともこのような研修会があれば参加したいと思っております。



行政書士になって

森 山 和 正

この度、36年余の役所勤めを終え、去る5月16日付で行政書士の認可をいただき、兵庫県行政書士会東播支部の一員として、入会させていただきました。

私は、昭和35年7月より、加西町役場の農業委員会に就職し、当時、鶴野、青野原地区等の払下げ、売渡登記事務が残っており、その売渡し、農地の交換分合、農地法に基づく買収、売渡事務、農地法関係事務を経験。この経験を生かし、行政書士の仕事をしたいと常々考えておりました。ところが本年6月より、社団法人加西市小野市シルバー人材センターに勤務することになり、現在に至っております。専念することはできませんが、出来る限り努めたいと考えております。と申しまして今日まで一件も仕事をしたことがございません。

今、国の方では、行政改革、地方分権、規制緩和などが論議されており、行政事務も大きく変貌しようとしております。私たち行政書士にとりまして、今後の成り行きが気になるところであります。

現在、私は別に勤めを持つ身でありますため十分な仕事はできないと思います。本会の一員になりました上は、地域住民の福祉向上のため、精一杯頑張る所存でございますので、諸先輩の先生方、末永いお導きを賜りますよう、お願い致します。

行政書士会に入会して

岩 城 章 雅

昨年春約40年間の法務局生活にピリオドを打ち、第二の人生を歩むため、行政書士会に登録、兵庫県行政書士会に入会させていただきました。

「第二の人生」としては第一の人生の反対の立場、すなわち国民の立場に立って「第一の人生」の経験と知識を生かし、国民のため、社会のため少しでもお役に立ちたいと考えております。

行政書士の業務について入会以前は安易に考えておりましたが、入会后その業務範囲の広範多岐にわたっているのに今更ながら驚いています。

現在までの知識と経験等はそのほんの一部にすぎないことと知り恥ずかしい気がしています。今後一刻も早く業務に精通できるように日々研鑽に努め研修会や勉強会等に積極的に参加し、諸先輩の御指導を得ながら国民と行政のパイプ役たる行政手続のプロとなるよう頑張りたいと思っております。


又、会には専門的な研修をするために分科会が結成されていますので、全般的に浅く知識を得ることも必要ですが、特に専門的な分野を一つか二つ奥深く研究するのも必要かと思っておりますので、早急にその分科会に入会し、諸先輩の御指導を仰ぎながら、プロとなるよう努力したいと思っておりますので、その節は宜しく申し上げます。

新入会員の紹介

氏 名 森 山 和 正
 登録年月日 平成9年5月16日
 事 務 所 兵庫県加西市山枝町243-1
 電 話 (0790) 47-1435

氏 名 岩 城 章 雅
 登録年月日 平成9年6月12日
 事 務 所 兵庫県西脇市和田町29-12
 電 話 (0795) 23-5866


建築材・新建材・銘木
 製函・パレット・加工品



株式会社 宮下木材

〒673-13 兵庫県加東郡東条町新定315
 TEL(0795)46-1145(代) FAX(0795)46-1148

焼鳥専門店



鳥 よ し

大石正範

兵庫県多可郡黒田庄町船町560-1 国道175号線沿
 鳥よし TEL・FAX(0795)28-4652番
 フリーダイヤル ☎0120-372955番
 ミナニクイイ

別館 カラオケホール (0795)28-5039番

幸せの青い鳥物語（三）

—— 明るく前向きにしっかりと働かなくっちゃ
この不況は乗り切れない ——

西 村 勝 彦

ある小さな会合で景気の話をした。主催者は「夢のある話を頼んませ。」と言う。「それは無理な注文ですよ。余りにも経済のファンダメンタルズ（基礎的条件）が悪い。理論的解釈や論理的分析を行えば行く程暗い話をしっかりと裏付けることとなる。」と応えたが実にやるせない。

理由を述べよう。まず第一に消費税率の引き上げ、特別減税の打ち切り、医療保険の患者負担増などで年間約9兆円もの金額が家計の負担増となり、（可処分所得の減少）本年7月以降個人消費は全くのびていない。これは、消費者の反乱と言ってもよい。

次に投資はどうか。公共投資は減少。住宅着工件数も消費税アップと低金利を先取りしてしまって今や減少傾向明白。民間設備投資も好調であった自動車、家電、半導体ですら足踏みの状態が続いている。

かろうじて輸出が円安もあって健闘している。また超低金利は家計には大きなマイナスであるが企業には大きなプラスとなっている。

最近では景気が腰折れしているうえに、日産生命、阪和銀行はじめ複数の中小金融機関、三洋証券、北海道拓殖銀行、ついには戦後最大と言われる山一証券の破たんにより、日本の金融システムに絶望的不安を生じ、株安はとまらない。銀行・証券・保険それに外国人投資家もみんな日本株をたたき売っている。日本の金融システムは、最大の危機に直面しているのである。

それにしても日本の大企業の何と倫理観のないこと。山一証券の負債総額は3兆円超、それに簿外負債は、2千600億円超という。大蔵省も日銀も、社内の常勤監査役も外部監査人の監査法人もみんなだまされていたと言うのか。社会的使命、社会的影響などと大企業の独善的論理を大義名分にして、勝手気ままに粉飾を続けたのは企業行動の倫理観が吹っ飛んでいたからである。

ところで、最近日本国中“不況”“不況”と不況の大合唱である。実際に大不況なのである。しかし、だからと言っていま、景気回復の特効薬がある訳ではない。

私は昨年「幸せの青い鳥物語（正）（続）」において、戦後日本経済の発展の歴史を振りかえり次のように述べている。

「次の世代に私達の世代と同じ幸せの青い鳥物語を実現させるため、今は痛みを伴っても、辛抱すべきは辛抱して、耐えるべきは耐え、景気・景気と騒ぎたてるのはよそう。」と。

また、大した根拠もなく、「これからは従前の常識では考えられないイヤなことが起きるであろう。」と述べていることが次々と当たるのに、ぞっとしている。

閑話休題、明るい夢のある話をしよう。橋本内閣は財政改革、行政改革、金融改革……と六つの改革をかかげている。今改革しなければ社会の活力は失われ、この国に明日はない。（所信表明演説）このため火だるまになって改革をやるといふ。このことを批判することは易しいし、守旧派議員は火だるまになって（？）反対している。

しかし、現在は戦後50年の繁栄のいいことづくめの時代を経て、次なる新しい50年のための歴史的転換点である。この理由も前掲の「幸せの青い鳥物語（続）」で述べている。

守旧派族議員や、世間の景気、景気の声に押されて公共事業にこれ以上金を使うことはない。いや、むしろ逆に大減税をやればよい。改革推進を心から期待したい。

ビッグバン（金融大改革）の実行はマーケットがいや応なく要求してくる。それに政治が対応を誤らなければ改革は一段と進む。悪いことばかりではない。よいことも起こっているのである。

次に株安に触れる。いま市場で銀行、証券を除く経営不安銘柄を思いつくま探せば、青木建設・フジタ・佐藤工業・昭和海運・飛鳥建設・三菱製鋼・熊谷組・ハザマ・新潟鉄工・日本冶金……となる。いずれも株価は100円前後である。ゼネコンの多いにおどろく。いずれも倫理観のないバブルの踊り子の悲しい姿であると言え言いすぎなのであろうか。

しかしながら、本田技研、信越化学、キャノン、武田薬品、ブリジストン、三共、トヨタ、スズキ、リコー、ソニー……これらは国際優良銘柄と一般に呼ばれているが株価は2千円から4千円もしている。日本の製造業は頑張っている。唐津 一氏の一連の著作を読むと本当に勇気が湧いてくる。大企業ばかりでなく、無名の中小企業でも世界銘柄はいっぱいあると言う。これは明るい夢のある話である。

身近な経営の話題に触れる。商品が悪い。技術水準が低い。売れない。不景気だとマイナスのことばかり言う人がいるが、売るための熱意はあるのか。商品開発は本気でやっているのか。技術水準向上の努力はしているのか。今頃儲かる商売などない。しかし、儲ける人はいるのである。と申しあげたい。人間は明るくて、前向きで、努力しないとダメなの

である。

個人生活に触れる。私達は戦後「もう少し、もう少し」と次々と豊かさを求めて幸せの青い鳥を掴む努力をしてきた。今はもうこれで十分豊かになったと考えるのがよい。これからは自分の稼ぎの中で生活することを考えればよい。そのため、一時的に生活の規模を縮小しよう。自助努力と簡素な生活を当たりまえにしなければ、この国はもちろん、個人生活の未来もない。

この理由を日本の財政構造の面から考えてみよう。日本は、かつて供給（能力）以上の需要を求めて景気・景気・拡大・拡大とやったため、国と地方の長期債務は500兆円にもなった。このように国債や地方債の発行による公共事業や福祉等の諸施策は供給以上の需要を求めた結果と考えれば分かりやすい。

日本の国内総生産（GDP）は約500兆円。だから企業で言えば年収と借金が同額になってしまったという訳である。この原資は、個人の金融資産1,200兆円と法人の金融資産400兆円である。

要するに、個人と企業の金融資産1,600兆円の内500兆円を国と地方自治体が使ってしまったのである。これは危機的状況である。この危機を脱出するためには、月並みな表現ではあるが、しっかりまじめに働くより解決の方法がない。これだけ経済の基盤が変化してくれば、いままた、ケインズの有効需要創出策をとるのはこの国の墓穴を掘るようなものだ。（と私は思っている。しかし、決して多数派の意見ではない。なぜなら論理展開の視点が狭く、一方的で月並みだと思っからである。）

それとももっと月並みに9,000億ドルとも言われている対外債権を取り立てる行動を起こしますか。世界第1位の債権大国日本といってもそんなことができる訳がない。それよりむしろ日本が外国に貸し

た金は政府が貸したにせよ、銀行が貸したにせよ、民間資本が貸したにせよ、本当に大丈夫なのか。借りた国が棒引きにして回収不能になることだってあると日下公人氏が言っている。（これからの日本）

結論を急ごう。景気は必ずよくなる。こんな大不況にもかかわらず失業と飢えの恐怖のない豊かさ（これは昭和初期の不況と大きく異なる）を評価し、政府も、企業も、個人も倫理観を持って行動し、しっかりまじめに働こう。

血の出るような努力をしてこそ、次なる幸せの青い鳥を掴むチャンスがやって来るのである。

平成9年11月25日稿

（論理展開が粗雑であることをお許し下さい）



編 集 後 記

昨年、国内では銀行、保険、証券会社などの一流の企業が倒産をし、また、政治も混迷を深めています。国外ではエジプトにおける日本人観光客にも多数の犠牲者が出たテロ事件や、エルニーニョ現象によると思われる異常気象による災害により、多数の犠牲者が出ました。今年はこの様なことが起こらない年でありますように願います。

本年も皆様の御指導、御協力、宜しくお願い致します。

岩 本 泉

小・中・高・一般・書道教授

由源社師範 中右 梁 桂
(寅雄)

加西市市村町 4 2 7 番地

TEL・FAX(0790)42-2198

パソコンシステム導入から運用サポートまで
SOHOのトータルアドバイザー

株式会社 サ ン テ ク ノ

姫路市安田 4 - 47 - 8

TEL(0792)23-8697 FAX(0792)89-8555

担当 井上

Small Office Home Office

ぎょうせい はりま No.40

発行日 平成10年1月1日
 発行人 中村 敬吾
 発行所 兵庫県行政書士会 東播支部
 〒675-21 加西市中野町817-1
 中村敬吾事務所内
 Ⅸ (0790)49-1234